

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

[PCT 36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 17 FEB 2006

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 NTK05-1657W0	今後の手続きについては、様式 PCT/ IPEA/ 416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2005/002211	国際出願日 (日. 月. 年) 15. 02. 2005	優先日 (日. 月. 年) 23. 02. 2004
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. C07D305/06 (2006. 01)		
出願人 (氏名又は名称) 新日鐵化学株式会社		

- この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☒ 附属書類は全部で 2 ページである。
 - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。
(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☒ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 20. 12. 2005	国際予備審査報告を作成した日 02. 02. 2006	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 八原 由美子	4 C 3 4 3 7
電話番号 03-3581-1101 内線 3452		

様式 PCT/ IPEA/ 409 (表紙) (2005 年 4 月)

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 _____ 1-12 ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 2, 3 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 1 項*、17.01.2006 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無
進歩性 (I S)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-3	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献 1 : JP 11-106380 A (宇部興産株式会社) 1999. 04. 20
文献 2 : JP 11-335314 A (三井化学株式会社) 1999. 12. 07
文献 3 : JP 10-204002 A (大日本インキ化学工業株式会社) 1998. 08. 04
文献 4 : JP 06-329569 A (新日本理化株式会社) 1994. 11. 29

○請求の範囲 1 - 3 について

文献 1 には、本願明細書における一般式 (5) で表される芳香族残基を有する芳香族オキセタン化合物が記載されている。

文献 2 から 4 には、置換脂環式化合物を得るために置換芳香族化合物を水素化触媒の存在下で核水素化することが記載されている (特に、文献 2 の請求項 2、実施例、文献 3 の請求項 1、実施例、文献 4 の請求項 1 及び実施例を参照のこと)。

しかしながら、一般式 (4) 又は (5) の芳香族残基を有する芳香族オキセタン化合物を核水素化することにより対応する脂環式オキセタン化合物を製造する点については、関連のある文献 1 - 4 にも開示されておらず、また示唆されているものでもない。

してみれば、請求の範囲 1 - 3 に係る発明は、文献 1 - 4 の記載によっても、新規性及び進歩性を有する。

第Ⅶ欄 国際出願の不備

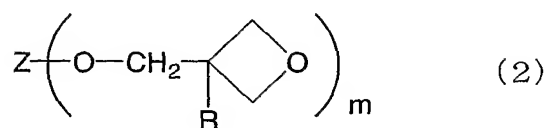
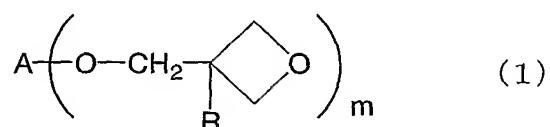
この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

出願人は、17.01.2006付けで国際予備審査機関が受理した書簡において、請求の範囲を頁単位で補正したが、通常、請求の範囲の補正は項単位で行うことが望ましい。

請 求 の 範 囲

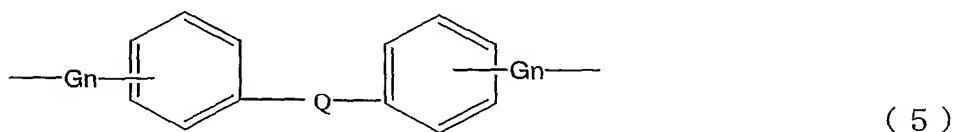
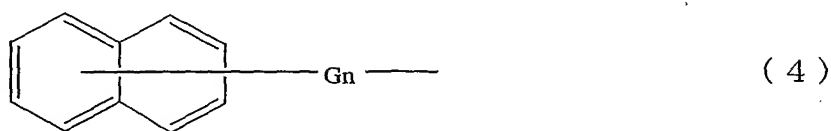
[1] (補正後) 下記一般式(1)で表される少なくとも2つのオキセタン環を有する芳香族オキセタン化合物の芳香族環を核水素化することを特徴とする下記一般式(2)で表される脂環式オキセタン化合物の製造方法。

[化1]



一般式(1)及び(2)において、 m は2～4の整数を示し、 R は炭素数1～6のアルキル基を示し、 A は下記一般式(4)～(5)で表される2～4価の芳香族残基を示し、 Z は A の芳香族残基が水素化されて生じる脂環族残基を示す；

[化2]



一般式 (4) 及び (5) において、G は単結合、メチレン基、エチレン基又はエチリデン基を示し、Q は単結合、酸素原子、メチレン基、エチレン基、エチリデン基又はイソプロピリデン基を示し、n は芳香族環に置換する G の数であり、一般式 (4) においては 2 ～ 4 の整数を示すが、一般式 (5) においては n の合計は 2 ～ 4 の整数を